



奥山水源の森には
クマが必要!

大量捕殺を中止
して下さい!

2019年
ツキノワグマ
過去最多 5153 頭殺害

撮影：佐藤嘉宏氏

小泉進次郎環境大臣に声を届けよう! 森の生態系保全に必要なクマを、 乱獲しないよう罠捕獲の規制強化を求めます!

現在クマのすんでいる自然界は人間が仕掛けた **罠だらけ!**

クマは簡単に罠にかかってしまう為、大量に殺されてしまってます。

クマ乱獲をもたらしている罠捕獲規制強化を!

《奥山荒廃でクマが人里へ》

戦後の開発やスギ、ヒノキの人工林政策により広大な奥山天然林が失われ、残されたわずかな天然林は地球温暖化や酸性雨によって近年著しく劣化、奥山生態系を支えてきた昆虫も激減しています。その結果、野生動物たちが食料を求めて里に大量に出てくるようになりました。地元も悲鳴を上げており、クマは危険であるとして直ちに捕殺されています。過疎化・高齢化による里山放置も、人と動物の境界線を失わせており、獣害増加の原因の一つです。

《罠を使うとクマを獲り過ぎる》

奥山水源の森を守ってきたクマは、銃では簡単には獲れません。しかし、近年、米ヌカなどクマの大好物を入れた膨大な数の罠が設置されるようになり、子連れの母グマや、人身事故と無縁の子グマまでもが、罠におびき寄せられて大量に捕殺されています。2019年度のクマの捕殺数は5909頭で過去最多（ヒグマ756頭、ツキノワグマ5153頭）でした。クマは繁殖力が弱いため、罠の設置場所、設置数、設置期間、誘引物などに早急に強い規制をかけないと、絶滅する恐れがあります。クマ問題をクマを殺さずに解決するため、以下を要望します。

要望事項

1. 奥山人工林の広葉樹林化を急ぎ、クマと人が棲み分けて共存できるよう、生息地を再生する。
2. クマを寄せ付けない集落作りや人身事故防止のための地元啓蒙を、公的交援で行う。
3. 奥山のクマ生息地での罠の設置、被害がないのに長期に亘り誘引物で不特定のクマをおびき出す罠の設置を禁止する。
4. クマの誤捕獲を避けるため、シカ・イノシシの捕獲にあたっては、箱罠の中にクマの好物を入れず、くくり罠は真円12cm以下を厳守する。
5. クマ放獣体制を完備して、誤捕獲されたクマは山に返す。
6. 統計もなく無秩序に全国に設置している大量の動物捕獲罠の実態を調査し、規制をかける。

一般財団法人 日本熊森協会

〒662-0042 兵庫県西宮市分銅町1-4
TEL0798-22-4190

GO!
ネット署名!

